

私の推薦



橘原 えりこ さん (北宮)

なぜ「愛ハ」・・・?

ジミー 作・絵

この本は、毎日の生活の中で見たり体験したりすることについてのさまざまな「なぜ?」という疑問を、投げかけています。例えば「もし本当に神様がいるのならなぜ見えないのか?」「なぜ人は愛するのか?」「なぜ人は争うのか?」「なぜ?」(疑問)です。それでは皆さんに質問します。「なぜ同時に楽しさやうれしさを感じるの?」「なぜか?」このように質問されたら、あなたがどのように答えますか。答えることができるとはどういうか? 私がジミーさんの本と出会ったのは、妹が図書室から借りてきていたのを見せられて見せてもらった時は、絵もストーリーも本当に素敵で、ジミーさんの本と出会うことができ良かったなと思いました。皆さんも、ぜひ読んでみてください。そして、出会えたらうれしいです。

目より情報

手づくり絵本を作ってみませんか?

3月19日(日)午後2時からのお楽しみ会は、折り紙などを使って手づくり絵本を作ります。参加希望の場合は、泗水図書館に申し込んでください(先着15人まで)。(泗水図書館)

桃の花を飾るのはどうして?

ひな祭りを「桃の節句」とも言いますが、中国では桃の木には体の中の悪いものを取り除く力があるとされ、3月始めの巳の日に祝いの席で桃の花を浮かべたお酒を飲む風習があったそうです。それが日本に伝わったと言われています。(中央公民館図書室)



児童文学者・新美南吉氏の世界に触れてみませんか?

3月22日は、きつねと人間のふれあいと悲しみを描いた「ごんぎつね」や「てぶくろを買いに」などの童話を書いた、新美南吉氏が1943(昭和18)年29歳の若さで亡くなった日です。図書室にも絵本や童話があります。ぜひ、お立ち寄りください。(中央公民館図書室)

問い合わせ先  
中央公民館図書室 ☎ (25) 1672  
七城公民館図書室 ☎ (25) 1580  
旭志公民館図書室 ☎ (37) 3111 内線 303  
泗水図書館 ☎ (38) 6866

3月の予定

	中央公民館 図書室	七城公民館 図書室	旭志公民館 図書室	泗水図書館
1 水				
2 木				
3 金				
4 土			閉室日	
5 日	閉室日	閉室日	閉室日	
6 月				休館日
7 火				
8 水				
9 木				
10 金				
11 土	きくちおはなしのもり おはなしかい 10:30~		閉室日	おはなしかい 11:00~
12 日	閉室日	閉室日	閉室日	
13 月				休館日
14 火				
15 水	閉室日			
16 木				
17 金				
18 土			閉室日	古典を楽しむ会 14:00~
19 日	閉室日	閉室日	閉室日	お楽しみ会 14:00~
20 月				休館日
21 火	閉室日	閉室日	閉室日	休館日
22 水				
23 木				
24 金				
25 土	きくちおはなしのもり おはなしかい 10:30~		閉室日	おはなしかい 11:00~
26 日	閉室日	閉室日	閉室日	
27 月				休館日
28 火				
29 水				
30 木				
31 金				休館日

新着図書情報

**砂漠の薔薇** 新堂冬樹 著  
ハイソな奥様の輪に加わり、愛娘の「お受験」にのめり込む中西のぶ子。その心の闇は、娘の合格でも晴れることはなかった……。平凡な主婦を殺人へと駆り立てた日常生活に潜む狂気を描くクライム・ノベル。

**青雲遙かに 大内俊助の生涯** 佐藤雅美 著  
夢見る頃を過ぎて、青雲の志はいま何処。伊達藩から全国の秀才が集まる江戸の学問所に入所した大内俊助。その道のりには苦難が待つ。しかし、青年には忘れていない想いがあった……。

**ペダルの向うへ** 池永陽 著  
悔やんでも悔やみきれない過ちがある。残された人生をよりよく生きようと決意して、男は息子を連れて旅に出た……。ほろ苦さと優しさを巧みにすくう感動長編。

**かもめ食堂** 群よう子 著  
ヘルシンキの街角にある「かもめ食堂」。日本人女性のサチエが店主をつとめるその食堂の看板メニューは「おにぎり」。けれど、お客といえば、日本おたくの青年トシミただひとり。映画「かもめ食堂」の原作。

**辻** 古井由吉 著  
男の影はこちらへ向かって来る。辻で道の尽きるのを願っている。生涯のどこかの辻で出会い交わり行き迷った男女。日常の営みの中に、生と死と官能のきわみを描く連作短編集。

**ガール** 奥田英朗 著  
きつとみんな焦ってるし、人生の半分はブルーだよ。既婚でも、独身でも、子どもがいてもいなくても……。さ、いっちょ真面目に働きますか! キュートで強い、肝の据わったキャリアガールたちのお話を5つ、ご覧あれ。

**山里の四季をうたう 信州・1937年の子どもたち** 井出孫六、石埜正一郎 編  
今から約70年前、信州の山里で、ひとりの若い代用教員の指導で小学生たちが楽しく書いた250編余りの詩を紹介。自分の言葉で自由につづった子どもたちの詩をとおして、昔の日本の暮らしがわかる1冊。

**私のパリ私のフランス** 岸 恵子 著  
人生を美しく生きるために……。パリ、そしてリヨンやブルターニュ、モン・サン・ミッシェルなどフランス各地を岸恵子が案内するフォト・エッセイ集。有名ブティックやレストラン、観光名所のガイドつき。

**正直じゃいけん** 町田 康 著  
負けたものが勝者が得るべき権利を得るといふ、「正直じゃいけん(正直じゃんけん)」のルール。子供らがそのじゃいけんを、正直、と呼ぶのはどういう訳だろうか……。『小銭の豪放』『往來の事情』などを収録したエッセイ集。

**親から子へ伝えたい17の詩** ドロシー・ロー・ノルト、谷川俊太郎ほか 著  
皇太子さまが記者会見で朗読された、ドロシー・ロー・ノルト作「親は子の鏡」。ドラマ「金八先生」の中で流れた、谷川俊太郎作「生きる」と長田弘作「世界は一冊の本」。子どもたちへ伝えたい、心動かされる17編の詩を収録。

**宇宙の絶景 ハイライト・オブ・ザ・ユニバース** ニュートンプレス  
太陽系から137億光年先の宇宙の果てまでまでのみどころを紹介。夜空に輝く星の種類など宇宙に存在する天体の基礎知識、太陽系・銀河系・宇宙の果てそれぞれの天体や現象を、豊富な写真とイラストで解説する。

**レオンと魔法の人形遣い 上・下** アレン・カースワイル 著  
ある日とつぜん魔法が使えるようになったら?舞台はニューヨークのマンハッタン。小学生のレオンは課題のぬいぐるみが上手に縫えず、留年のピンチに陥っていたが……。友情、勇氣、ユーモアあふれる学園ファンタジー。

**デモナータ 2幕 悪魔の盗人** Darren Shan 作  
カーネルは、ほかの子には見えない「あるもの」が見えるため、学校では変人あつかい。そんなある日、カーネルは思いもよらぬ事態に直面し、つらく悲しい運命をたどることになる。デモナータシリーズ第2幕。

**あなたをずっとずっとあいしてる** 宮西達也 作絵  
心やさしいマイアサウラのお母さんに、マイアサウラとして育てられたティラノサウルスの子・ハートは、ある日恐ろしいティラノサウルスに出会います。自分もティラノサウルスだと知ってしまったハートは……。

**鬼の首引き** 井上洋介 絵、岩城範枝 文  
「手から食おうか、あしから食おうか、それともがぶりと、あたまから?」鬼の娘が初めて人を食べる「おいしい初め」の餌食となった若者が、食われまいと策を弄します。狂言から生まれた絵物語。

**あなたに届けば** フジ子・ヘミング 著・画  
「1人でショパンの『雨だれ』を弾いていると、彼と、女流作家ジョルジュ・サンドの恋を覚えてしまう……」人気ピアニストが大人の恋、真実の愛を優しく語りかける。恋が叶ったあなたへ、叶わなかったあなたへ、「雨だれ」を聴きながら読みたくなる、シンプルな言葉と個性的な絵を集めた一冊。

**あの日にドライブ** 萩原 浩 著  
元エリート銀行員のタクシードライバー。もう一度人生をやり直すとしたら、どこからだろう。「せめて、もう一つあったかもしれない人生を一目みるのが出来たら」一度曲がってしまった人生の道を直すことは出来なくてもクルマをバックさせることぐらいは出来る。そして「あの日」へのほろ苦いドライブが始まる……。中年男の揺れる心情を描いた作品。

**誤読日記** 斎藤美奈子 著  
「世界の中心で、愛をさけぶ」から「バカの壁」、タレント本まで全175冊。話題になったあの本この本を見事にメッタ斬り。読んだことはなくても「ああいう本だろうな」と知っている本が多く、楽しい一風変わった読書案内。批判ばかりでなく誉められている本を、珍しく誉められている本をぜひ読んでみる価値あり。クールで熱い一冊。

**刺繍** 川本晶子 著  
39歳。バツイチ子どもナシ。認知症の母と老いた父と暮らす家で、20も年下の恋人も同居。娘のことも忘れ去った母が彼に恋をする。その世話を焼く恋人に揺れる心、老いた母への嫉妬と確執。父は如何なる思いでいるのであろうか。第21回太宰治賞受賞作。

**魔法のゆび** ロアルド・ダール 著  
「カッとなると、目の前が真っ赤になり、右手の人さし指がビリビリしてきて、突然、光線のようなものがピカピカと稲妻みたいに……。そして魔法をかけてしまう」これが私の秘密。ウィンター先生があんなことになって二度と使わないと誓ったのに……。ちょっとびりびり恐くて面白いファンタジー。